

「ムラクモキジビキガイ」多摩川河口で採捕!!



採捕されたムラクモキジビキガイ

平成31年2月22日、多摩川河口で噴流式貝桁網によるアサリ生息状況調査で、殻高11.2mmの生貝を1個体採捕しました。本協会では昭和59年から貝類等の生息状況調査を行ってきましたが、本種の採捕は今回が初めてとなります。

日本近海産貝類図鑑第二版(奥谷喬司編著)によると、本種は「オオシイノミガイ科の小型貝で殻は薄質、淡黄色から淡桃色で、黒色の縦縞と斑をもつ、全面に極めて細かい螺溝をめぐらす、軸壁は強い、軟体は黒い、房総半島・若狭湾から九州、朝鮮半島、沿海州の潮間帯～水深30mの砂底に生息」とあります(概略抜粋)。

また、国立科学博物館の長谷川和範博士によると「以前は大きな湾の奥部に普通に見られましたが、近年の環境変化により、東京湾など多くの産地で姿を消し、現在は瀬戸内海などに細々と生き残っている。」とあります(国立科学博物館HPより抜粋)。2月26日同博士に伺ったところ「東京湾でもかつては多産していましたが、50年ほど前から現在まで生きた個体の正式な記録はない。」とのご返事でした。

ムラクモキジビキガイは日本のレッドデータブック(2014)では絶滅危惧種Ⅱ類、環境省では準絶滅危惧種に分類されていますが、東京都内湾で採捕された事は大きな驚きです。

